



のほりホヤ さび

せんだい・みやぎ
NPOセンター
ニュースレター
Vol.4

みみん

せんだい・みやぎNPOセンター 創立10周年にむけて

せんだい・みやぎNPOセンターはおかげさまで2007年11月に10周年を迎えます。そこで、仙台・宮城の市民活動の10年間のあゆみを中心に、当センターのオビニオンを全5回で、10周年準備号として発信していきます。

- p1 突撃！こちらNPO取材班
 - p2~5 第4回みみん座談会
 - p6 代表理事オビニオンコラム 大滝 精一
 - p7 寄稿 NPOとの協働の取組みについて 小野寺 純一さん
 - p8 スタッフNPO体験記
 - p8 常務理事エッセイ ベニクロサンバ 黒澤 学
- お知らせ、編集後記、連絡先等

突撃！こちらNPO取材班

特定非営利活動法人イコールネット仙台

代表：宗片 恵美子さん

「視点を変えて、見えてくること」

宗片さんが、市民活動を始めるきっかけとなったのは、お子さんが小学生の頃に参加し始めた「社会学級」でした。ここで、後のライフワークとなる男女平等問題と出会い、仲間と「グループ（アイ）」を結成し、活動を始めることになったのです。

イコールネット仙台立ち上げの20年程前のことです。また、仙台市の女性センター建設計画をうけ、要望活動を行っていた「わたしたちの女性センターを実現する会」では、代表として根気強く行政との対話を続けました。女性センターは残念ながら実現には至りませんでした。ここでの経験を生かし活動を次のステップに進めるため、2003年イコールネット仙台を設立したのです。

イコールネット仙台の活動は、大きく二つに分かれます。一つは、仙台市男女共同参画推進センター「エル・パーク仙台」内の市民活動スペースの管理・運営です。利用者の視点を持ちながら運営に参加していきたいというのは、団体立ち上げ時の目標でした。

もう一つは、さまざまな視点から男女平等問題について伝えるための自主事業の展開です。「女性とメディア」「災害と女性」など毎年テーマを設け、講演会や上映会を開催しています。宗片さんのお話をうかがっていると、



私たちが毎日触れるニュースも、少し視点を変えることで、新たな発見があるのだと気づかされます。「意識の輪を広げていくことが、団体の最大のテーマです。そのために、いろいろな人とネットワークを組み活動を続けていきたい。」と宗片さん。

最近、人やグループの育成にも力を入れています。昨年開催した講座がきっかけとなり、新たに女性の視点でメディア作りに取り組むグループも立ち上がりました。今年には企画力や発信力を身に付ける「プロデューサー養成セミナー」を開催します。ここから、次にどんな輪がひろがっていくのか楽しみです。

特定非営利活動法人 イコールネット仙台
TEL&FAX 022-2157252

担当：小松 州子

第4回テーマ

今後10年の市民活動を考える

これからの10年間の市民活動を考えるため「次世代」をテーマに、今後の市民活動を担っていく方々と、次世代に活動を繋げていく取り組みをして来た3団体にお話していただきます。

みんな 座談会

minmin
TALK

当センター10周年に向けて、仙台の市民活動の歴史を俯瞰し、次のステップへの礎とするために、仙台で活躍されている市民活動団体に全5回、5つのテーマでお話をうかがいます。

座談会では、その内容をダイジェスト版として掲載し、詳しい内容は10周年記念誌として発行する予定です。

■活動紹介と活動のきっかけ■

新川 団体の紹介と活動を始めたきっかけを合わせてお話しください。

立岡 ワンファミリー 仙台は2002年4月から路上生活者の自立支援を行なっています。毎週月曜日の朝7時にホームレスの方と一緒にゴミ拾いをして、それに参加した人に朝食を提供しています。また民間のアパートを借り上げ、ホームレスの受け入れも行なっています。

この活動を始めるきっかけは、新宿中央公園のホームレス支援を行なっている人と出会い、自分も何か出来るかなって思っただけです。でも、二の足踏んですぐには行動に移せなかつたんです。そんな時、交通事故に遭い「このまま死んでたら人生後悔したな」って思っただけです。じゃあ死ぬ気だったら何でも出来ると思

って、(特活) 仙台夜まわりグループさんの夜回りに一回参加してみたい。どんな活動をしているかを知り、自分でもできるなと分かったので、週一回夜回りを始めました。夜回りをする中で信頼関係ができ、ホームレスの方に「どういう状況だったら、一日生きていける？」と聞いたら「朝飯食えたらな」って答えました。じゃあ一汗かいた後、俺朝飯喰わしてやつから」と、ゴミ拾いの活動に繋げて行きました。

土屋 都市デザインワークスは、仙台をメインのフィールドとして、現場を歩き回って得たものや、様々な資料やデータなどを読み解きながら仙台という都市の将来像を提案しています。提案を深めたり、知ってもらうために、フォーラムやセミナーを開催したり、まちの魅力を伝えるガイドツアーを実施しています。

その他にも豊かな都市空間を創るための調査研究や計画立案などの事業も受託しています。行政や企業に動いている人、一般市民の人も、皆が楽しめる幸せに暮らせる街を、皆でつくっていく、そのコーディネート的な役割を担っていきたくて考えています。

この理念は、大学で建築や都市デザイン勉強をする中で研究室の先生から教わりました。その先生は「皆がハッピー」って言ってたんです。

その言葉が印象に残っていて、その理念を持ったNPO法人を、2002年に先輩たちが立ち上げたので、私も学生として活動に関わり、大学を卒業と同時に2004年から都市デザインワークスに参加しました。

中村 グループゆうは、自分たちの老後の食を豊かにしたいと考えた市民が集まって、1995年から高齢者や介護者に配食サービスを始めました。しかし、地域の中に入るようになったら、問題を抱えて地域で暮らすににくい環境にいる人は高齢者だけではなく、多様な人たちがいるという事に気付きました。その中で、障がい児を抱えたお母さんたちとの出会いから、放課後の遊び場がないことを知り、じゃあ、そういう場所を作ろうと2001年に障がい児の遊び場「ピーターパン」を作りました。そんな出会いから始まって、地域で知り合った人の抱えていた問題に対して、それぞれの切り口でサービスを作り、賛同してくれた人たちが活動できる仕組みを作ってきました。

■活動をしているの壁■

新川 活動を続ける中で壁があったと思います。今後の展開上の問題も含めて、今こういう課題に直面して

◇出席者◇



立岡学さん

特定非営利活動法人
ワンファミリー仙台
代表



土屋大輔さん

特定非営利活動法人
都市デザインワークス



中村祥子さん

特定非営利活動法人
グループゆう
代表

□コーディネーター□



新川達郎

特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター
理事

おられるかお話しください。
立岡 制度的な壁はありますけど、やれる範囲でやっていけば良いと思っています。むしろ、制度的な壁以上に、ホームレスの方が私たちに心を開いてくれるかっていう壁はあります。向こうから壁を取り払ってもらうために、例えば、ホームレスの人に農作業やいろんな活動に参加してもらって、人と接してもらうなど、いろんな気付きを与える機会を提供しています。

ある時、異分野で活動している団体を繋げていったら、良い事尽くめだよなと思い始めました。福祉分野だけで活動していると、その分野に関心がない人たちには広がらないんです。その為、誘われた団体には可能な範囲で参加しています。ホームレスの方を人材として紹介すると、紹介された団体は事業が回るし、ホームレスの方の気付きになるかもしれない。また、ホームレスに出会う事で、市民の目も変わってくるんです。昨年、仙台青年会議所さんの推薦があつて、環境大臣の奨励賞を頂く事になりました。壁があつて悩んでいる時に、ほっとご褒美が来るんですよ。そつするとモチベーションがまた上がってくるんですね。
土屋 私たちは仙台の将来ビジョンを提案することを自主事業として

やっていますが、提案がなかなか伝わらないんですね。僕らの説明の仕方が悪いのかもしれないと、情報発信の仕方が上手くいっていないのかもしれない。きつといろいろ問題はあると思います。そこが一番の壁です。

去年、HPを使って僕らの活動を伝えて行こうと、HPの内容を刷新しました。今年は、「スタッフノート」というリレー形式でエッセイを掲載していくページを創りました。そういう時に、(特活) 仙台インターネット推進研究会が開催しているせんだい・みやぎインターネットアワードの中の「先進的IT活用賞」という、市民団体やNPOのHPに与えられる賞を頂きました。じゃあもっと頑張ろうかなと思って、続けている所です。壁にぶち当たったりつても、情報を発信することで破って行こうとしています。

新川 褒めてもらつて嬉しいことですよ。社会が、私たちの事を見てくれるんだと思える瞬間って、これからももっとやらなくては強く思う時ですね。さて、中村さんはどうでしょうか。

中村 まず最初に、構成メンバーが大抵女性たちでしたので、活動によって夫よりも家を空ける状況に対して、自分が納得する事が出来ない

ことが問題でした。自分の活動に対して自己説明をして、自分を納得させないと人に説明出来ませんよね。社会的に女性たちが提言や行動することの意義を、自分の中で説得できるようにするのが、まず第一段階だったんです。

配食サービスを週一回行なっていた時は、みんなで折り合いをつけてやっていたんですが、ニーズが増えてきて、毎日やらないといけないなつたんです。ある時「ここが仕事場だったらどんなに良いかしら。」と言われ、ここを仕事場にする人がいてもいいなという様になりました。それから、定期的に活動に参加してくれる人には、時給を発生させました。ピーターパンを始めたときに、最初若者のボランティアを募ったんですが、ボランティアは自主的な時間の提供ですので、調整が難しく調整がきく若手のスタッフが必要になつたんですが、被扶養者ではない若い人はボランティアやパートでは食べて行けない。だから、常勤スタッフがピーターパンの時に発生しました。

新川 やはり活動を続けていくには生計を立てていかななくてはいけないんですが、その辺のご苦労はあるんですか？

土屋 今は受託事業が収入の基盤



立岡 路上生活経験者を二人雇用
して、一人はアパートの管理人

になっているんですが、自主事業をやりながら団体を知ってもらい、私たちの活動に共感してもらい、お金を集めることも重要だと思います。そこが上手いかなと、今後も活動を続けていくのは難しいと思っています。

その為の取り組みとして、せんだいCARESに参加して異分野のNPOや企業と交流したり、今年度はまちづくりNPOを繋ぐ取り組みをしようと思っています。すでに在仙のまちづくりNPOに声掛けし、賛同を得て、皆で一緒になって活動内容について協議しているところで

を、もう一人は生活保護を受けながら業務全般について仕事をしてもらっています。路上生活者はいろんな人がいますが、どちらかという管理や事務仕事の経験がない人が多いです。スタッフとしては一般の事務職経験者を雇った方がもっと効率があがるかもしれません。ただ、うちの活動では路上生活者の方が絶対的なスペシャリストだという思いがあります。うちの団体は、ホームレス上がりだからできる団体で、今後ホームレスだった方以外は採用しない予定です。

■活動を次の世代へ引き継いでいくために■

新川 中村さんは、若い方を有給スタッフとして雇用したいと尽力されていると思います。このあたり、少しお話を伺いしてもよろしいですか？

中村 グループゆつは、ピーターパンの子どもたちと若者を会わせる場作りができておっしゃいます。学生ボランティアは活動に参加した後すぐいい顔になるんですね。それが、高校生の夏ボラの受け入れや、福祉分野ではない大学生の参加をお願いしている理由です。障害のない社会って、福祉分野の人たちだけが一生懸命やれば実現できる訳ではなく、例えばあの子だったらこの段

差は辛いかどうか、そういう事を考えてくれる建築士がいることで違うと思うんです。自分で感じて共感する場を与えられ続ける事が、今私たちにできることだと思います。

しかし、若者に活動に参加してもらおうと思ったとき、それを支える経済的基盤がない事に気付きました。私たちが、経済的な基盤をあまりにも度外視してやってきた責任があると思っています。私たちが被扶養者だったから、問題と感ぜなかつた。いざ若者に任せようとしたら、若い世代の自治の為の給与が出せないのです。だから彼らに強いる訳にもいかないし、だから「自由に羽ばたいて」ってかっこよく言いたい訳です。でも、羽ばたかれたあとどうなるんだらう？って。そこが今、福祉NPOの次世代交代の時期を迎えた団体の悩みです。

新川 それが、今まで活動をしてきた方の責任かもしれないですね。立岡さんや土屋さんは、今後の展望や、活動をどう続けていくか想像してみたいことがありますか。

立岡 実際ですね、僕が今「このこ」といったらうちの団体は潰れるなと思っています。うちの二人いるスタッフのうち、一人が倒れても潰れるとつくづく思っています。でもNPOの活動は、求められるうちは

存在意義があると思うんですけど、うちの場合はホームレスが居なくなったら必要なくなるし、それが目標だったりします。そんな開き直りもどこかにあるんです。あと、俺がやらなくてはいけないという思いを持った人が必ず出てくると思っんです。そういう人が出て来た時に、身を摘まずして逆に言えばぐんと引き上げるくらいは度量は自分でも持ちたいなと思っています。

土屋 私たちの団体は10年20年後の仙台の事はよく考えるんですが、自分たちの事はあまり考える時間がないんですね。実際、少ない人数でやっているの、仕事の分担があります。その人その人で得意な事がありますから、一人でも欠けてしまうと立ち行かなくなるんですね。そうですよね、今後10年……

新川 そうですよ。少なくとも10年先の目標があるなら、団体のビジョンや継続性も考えないと。

土屋 そういう話しは事務局のスタッフの中ではするんですが、今抱えている仕事で目隠しされて、先が見えない状況が多いです。一つのモデルとして、アメリカのプランニング系NPOの様に発展できれば良いと思います。市民とともに計画を作り実践するNPOとして行政から計画づくりの仕事を委託され、行政職員も研修派遣として受け入れる。そ

んな「仙台都市デザインセンター」と言える機関を運営していきたいです。今年SURF「仙台都市総合研究機構」が廃止されたこともあり、ますますその必要性が高まってきていると感じています。後はネットワークを使って異分野や同じ分野の方と交流を持つ事も、大事な事かと思っています。

■中間支援組織への期待■

新川 最後に中間支援組織としての当センターへの期待や、普段感じておられる事も含めてお願いします。

中村 私は市民社会を目指す為の、政策提言をするNPOのネットワークが必要だと思っています。

NPOの意見を束ね、集めたものを国会でロビー活動をする役割を担ってもらいたいと思います。

あとは、福祉資源の共有化を計ることが出来ればいいと思うんですね。現在は、それぞれの団体が困い込む構造の中で福祉は担われていて、すごく素晴らしい人たちがいるんですけども、社会資源となっていないですね。ネットワークをしたり、呼び掛けるのはNPOが担っていくのかと思っています。

土屋 私のきっかけは先輩でしたが、何かやりたいと思った時にき

かけがないと活動が始まらないと思うんです。そのきっかけがせんだいみやぎNPOセンターだったり、仙台市市民活動サポートセンターだったりするので、そういった人たちの受け皿になることが大切だと思います。あとはサポートセンター的な機能が、分室として、図書館や博物館の中にあってもいいのかもしれない。活動したいな、と思った時にすぐできる場所を提供していければいいと思います。

立岡 NPOと政治について

接だと思っんです。今の政治家で市民派と呼ばれる人は、市民活動の市民派ではないと思う。逆に政策を提言していつて、実現の為にNPOの中から政治家を輩出させていかなくてはいけない。吸い上げたものを政策にしたり、政治家を作っていくのもせんだいみやぎNPOセンターの役割かなって思います。本場の現場の声を持った上で、事情を見てやれるんじゃないか。その役割を担っていくのが、次のステップであればすごく面白いと思うし、世の中を変え的一步になると思います。

新川 直接、選挙運動をすることはNPOでは禁止されていますが、少なくともNPOの活動の中から政治を動かせるような、政策の提言を行うことはできます。広く市民や政

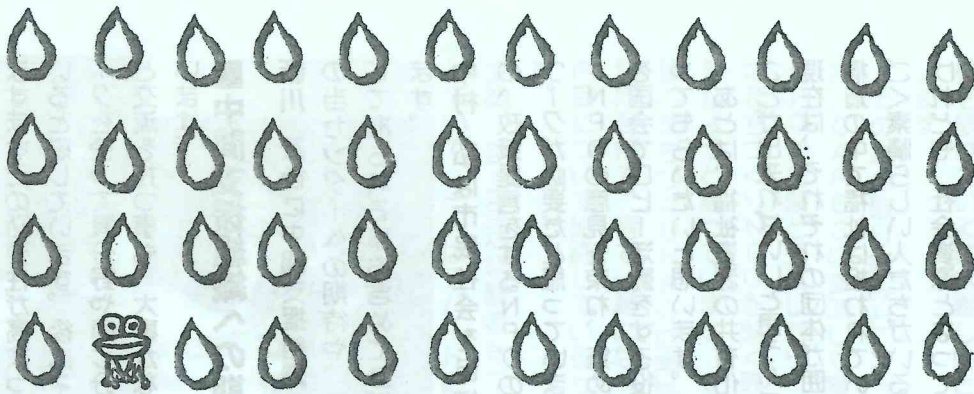
治家に対してNPOの考え方に共鳴してもらえそうな訴え方をします。が、我々の課題でもあると思います。どうも、ありがとうございます。

担当 加藤哲夫・内川奈津子・高橋陽佑

団体紹介

- ◆特定非営利活動法人ワンファミリー仙台
路上生活者を対象にした就労支援、住居支援等の活動を展開していき、生活保護に極力頼らない方法での就労ならびに自立支援を目的として活動している。
- ◆特定非営利活動法人都市デザインワークス
市民提案型のまちづくりを実現するため、まちの将来像を提案し、市民・企業・行政の皆と共有しながら、その実現に向けて様々な活動をしている。
- ◆特定非営利活動法人グループゆう
地域に拠点をもち、各々の自主性を尊重し合いながら、ハンディキャップをもつ人やその家族の自立していくことを目的として活動している。

	制度関連の動き	仙台市の動き	座談会参加団体の動き
1995 (H7)			グループゆう設立 配食サービス開始 (グループゆう)
1996 (H8)			
1997 (H9)	人権意識啓発推進法施行(2002年失効)		せんだい・みやぎNPOセンター設立
1998 (H10)	特定非営利活動促進法施行		せんだい・みやぎNPOセンター法人格取得
1999 (H11)		仙台市市民活動サポートセンターオープン	さろん・ど・ゆう開始 (グループゆう)
2000 (H12)	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律施行		グループゆうNPO法人格取得 「勝手連まちづくり応援団」設立 (都市デザインワークス)
2001 (H13)	認定NPO法人制度施行		放課後クラブ「ピーターパン」を開設 (グループゆう) 「せんだいセントラルパーク構想」発表 (都市デザインワークス)
2002 (H14)	介護保険法改正 精神保健福祉法改正		都市デザインワークス設立 ワンファミリー仙台設立 都市デザインワークスNPO法人格取得
2003 (H15)	特定非営利活動促進法改正 認定NPO法人制度改正 支援費制度		介護保険事業ケアプラン ホームヘルプ開始 (グループゆう)
2004 (H16)			支援費制度開始 (グループゆう)
2005 (H17)		仙台市路上生活者等支援センター開所	「せんだいセントラルパーク・デザインセンター」期間限定開設 (都市デザインワークス)
2006 (H18)	障害者自立支援法施行 認定NPO法人制度改正	宮城野区幅ヶ岡公園内ホームレスの強制退去実施 仙台市市民活動サポートセンター移転オープン	ワンファミリー仙台NPO法人格取得
2007 (H19)			ホームレス住居支援施設を開設 (ワンファミリー仙台) 地域活動支援センター開所 (グループゆう) キッチン歩'歩' 開所 (グループゆう)



大滝 精一 自治の仕組みを

コミュニティの活性化につなげる

Opinion Column

代表理事 大滝・加藤のオピニオンコラム

地域経済の自立のために必要な車の両輪とは

宮城県大崎市岩出山に「あ・ら・伊達な道の駅」という道の駅がある。年間の来場者約270万人、年間売上高10億円をあげる、わが国で最も成功している道の駅として知られている。読者の方も一度は訪れたことがあるかもしれない。経済的成功もさることながら、私が注目していることは、この道の駅の成功の根底には自治と参加の仕組みが根づいているという点にある。

もともと現在道の駅のある場所は、中学校が統廃合により移転を余儀なくされた跡地であった。若者の教育と成長を担ってきた場所に、それに代わる価値ある拠点をもう一度つくりたいというのが、周辺の住民の共通の思いだったという。何をやるのかの議論に住民が徹底的に参加し、最終的に決定したのが道の駅であった。住民参加の思想は、この道の駅を運営する株式会社市民株主制度にも反映されており、住民約80名が株主としてこの拠点を共同で支えている。

住民参加と独自の経営方法は、こ

の道の駅の至るところに見ることができる。地元農産物の直販はどの道の駅でも行われているが、ここではその鮮度と安さ、それに品揃えの豊富さが極立っている。地元農家は出荷情報などを携帯電話でやりとりし、旬の売り場づくりへの努力を怠らない。駅内の店舗にはパン工房、米工房、麺工房などといわれるコミュニティ・ビジネスの拠点もつぐら、特に農家の女性がんばっている姿が印象的である。伊達家の縁で岩出山と関係の深い北海道当別、松山、京都とかかわりの深い北海道商品が置かれているのも、道の駅の独自性を高めている。

自治や参加の仕組みと地域コミュニティの活性化とは根底のところにつながっている。地域が経済的に自立していくためには、それを支える自治や参加の仕組みが不可欠である。「あ・ら・伊達な道の駅」の成功は、この2つが車の両輪となつて地域コミュニティを支えていることを私たちに教えてくれる。

寄稿 NPOとの協働の

取組みについて

東北労働金庫宮城県本部 営業推進グループ次長 小野寺純一



(特活)みどり十字軍は、水の森公園の指定管理者である(財)仙台市

私が金庫の社会貢献活動に係る担当となり一年が過ぎようとしています。この間、多くのNPOの皆様と接する機会がありましたが、皆さんの元気と様々な課題解決に向けて新たな取組みに常にチャレンジしていることに驚かばかりでした。今年度もさまざまなNPO関連の取組みを展開しますが、私自身も元気にステップアップしていきたいと考えています。

さて、具体的な取組みを少し紹介しますと「ろうきん地域貢献ファンド」をマッチングギフトとした助成事業を実施しています。自動振替機能を利用した「NPO寄付システム」や定期預金「NPOサポーターズ」の一部利息からの寄付と、さらに「ろうきん」が助成財源として拠出した資金を活用した助成事業で7月に募集を開始

します。9月には「NPOサポーターズ」の新規契約者へ進呈する販促品の企画と製作を福祉施設に公募を行い粗品として採用する「NPOへ実施する予定です。また、宮城県と提携して創設した「NPO活動支援融資」の取扱いをしています。融資内容は助成金等のつなぎ資金となりますが、NPOの活動分野が広がるなかで必要とする資金ニーズも多様化してきており、そのニーズに対応していく融資制度確立が課題としてあるのではないかと感じています。

更に現在は、東北全域でのNPOネットワーク構築に向けた協議を各地域NPOの皆様と協働で行っています。これからも地域に根ざし着実に歩み続けているNPOの皆様を応援していけたらと思っています。

公園緑地協会から水の森公園の各種行事の計画立案の事業を受託しています。水の森周辺は仙台藩の時代から「御林」として大切に扱われてきましたが、1960年代から急速に宅地開発が進み、現在では団地に囲まれた自然緑地ということで貴重な存在であることを学びました。観察会の間も、近くの住宅地から森に入ってきた方と何人もすれ違いました。

森の学習塾はテーマを変え、年24回ほど開催されるそうです。今回の参加人数は19名。家族で参加する方、友達と参加する方とさまざまです。

さて、自然観察会の開始です。普段街では舗装された道を歩いていますが、山の道はそれとは違い地面を落ち葉が覆い、沢山の地を這う虫や木の根のおかげで、歩き出すたびに、足を包むようにふかふかするので、それだけで楽しくなりました。万葉集に読まれている木があると、講師が万葉集を読み、現代語訳で説明をしてくれました。また、木の名前の由来を教えてもらい、ただカタカナ表記されていた木の名前が意味のあるものだということを学びました。参加者は知らない植物があると積極的に講師に質問をするなど真剣に話を聞いていました。

自然観察会に参加し、仙台近郊でもレッドデータブックに該当する貴重な草木がある事に驚きました。水の森の自然を守りながら自然観察会を開くなど、みどり十字軍の活動は多岐にわたることを知ることが出来ました。そして、自分の周りの身近な自然についても考えるきっかけになりました。

担当：豊泉昭子

5月26日(土)
森の学習塾「自然観察、万葉集と自然草木」に参加しました。

主催：仙台市、水の森公園指定管理者／(財)仙台市公園緑地協会
企画・運営：(特活)みどり十字軍

スタッフNPO体験記

ベニクワサンパ

第4回

「夜のPTA活動」

娘の小学校のPTA会長をしています。PTA本部役員10名、私以外は全員お母さん。各委員会の委員が約80名、ほとんど全員がお母さん。たまにお父さんの代理出席はありますが。

年に一度、役員と委員全員が集まる会議があります。校長、教頭、教務主任、会長のみが男性です。お父さんたちからは、「会長、そつという会議によく耐えられますか」といわれます。

今から、10年前、ジエンター系の会議に参加した(させられた)時、10数名の女性の中に男性は私のみ。なんか、居心地の悪さを感じます。「どうして」「何を言っているのですか、私たちは逆の立場に耐え続けているのですよ」と言われました。会議といえば、男性中心で、その中に女性が一人

常務理事 黒澤 学

2人というのが当たり前の時代でした。いまでも分野によってはそつでしょう。そのとき以来、改心し、女性中心の会議でも平常心を保つ努力をしながら参加させていただいています。

そんな修行を10年も積んできたので、PTAの会議も苦にはなりません。が、しかし、お父さんたち、もう少しPTAの方を向いてもらえないでしょうか。

ここで終わると、タイトルに「つながりません」。

地域のお父さんたちとおやじの会、向山おやじ倶楽部を創り、子どもたちに様々な体験をさせる活動をしています。羊煮会をしたり、学校の竹林で竹の子を掘って竹の子ご飯を炊いて校庭で食べたり、世界のソバ料理と和そばの手打ちを体験したり、何種類ものラーメンが食べられるラーメン博覧会を開催したり・・・何故か、食べ物系のイベントが多いのです。まあ、食は基本ですから。

平日昼間のPTA活動は難しくても、夜な夜なの企画会議(飲み付き)と休日のイベントなら参加出来るお父さんは多いはずですよ。

お父さんたち、夜のPTA活動に目覚めてみませんか。もちろんお母さんたち公認で。本当は、非公認活動が楽しいのですが。しい、それはないしよ。

お知らせ

■加藤哲夫のNPO経営相談■

●日 時:7月20日(金)、8月20日(月)
13~17時

●場 所:せんだい・みやぎNPOセンター

●相談料:2500円(1時間単位、会員500円割引)

●予約制です。まずはお電話を!

■ろうきん地域貢献ファンド■

2007年度の助成募集が始まります!

□Aコース(企画助成)	□Bコース(備品購入応援)
●助成額:10~30万円(1万円単位)	上限10万円
●助成団体数:4団体以上(各団体の助成額により変動)	3団体
●公募期間:2007年7月2日~7月30日(A・Bコースとも)	

※詳しくはファンド事務局、せんだい・みやぎNPOセンターまでお問合せください。
(公募開始とともに、当センターHPでもご案内の予定です。)

■通常総会■

9月8日(土)午後

※ぜひご出席ください。

みんな編集後記

当センターでは、7月1日にオープンする「仙台市シニア活動支援センター」の管理運営を仙台市から受託しました。50歳代後半の定年退職前後の方を主な対象に、地域・社会活動への参加を応援する施設です。現在オープンに向けて々と準備中です!(真壁)

街路樹の枝が伸びて、青葉が茂る気持ちの良い季節になりました。植樹祭のニュースも多く、緑が増えると嬉しいです。ところで自宅周辺では雑草もすくすくと伸びていて、カモガヤには結膜炎に悩まされます。雑草の環境は何で決まるのでしょうか。(ゆうさ)

この2年ほど家でヨガをしているが、私に合うようだ。

肩がこったり頭が重かったり体調がよくないという時にやるとすっきりする。これからは、週1回くらいは続けようかな!(遠藤)

連絡先・振込み先など

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail minmin@minmin.org http://www.minmin.org/
郵便振替:02260-3-16325 特定非営利活動法人
仙台銀行 中央通支店:普通4094031 加入者:せんだい・みやぎNPOセンター

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事 大滝精一・加藤哲夫

編集長:真壁さおり

編集班:遊佐さゆり、遠藤智栄

発行日:2007年6月27日

隔月発行(2007年8月まで)、無料

イラスト(表紙/6ページ):田中聡子さん

デザイン:真山正太さん

